

東北管内における「みどりの食料システム戦略※」の着実な進展に向け、関係の皆様タイムリーな情報をお知らせできるよう、「東北みどり戦略だより」を発行しています。

※「みどりの食料システム戦略」は、食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現するため、農林水産省で策定したものです。

「みどり食料システム戦略」
の詳細はこちら→



<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori/>

J-クレジット制度が広がり始めています！



J-クレジット制度とは？

J-クレジットについて
詳しくはこちら →



J-クレジット制度とは、省エネルギー設備の導入や再生可能エネルギーの利用によるCO2等の排出削減量や、適切な森林管理によるCO2等の吸収量を「クレジット」として国が認証する制度です。

本制度を活用した場合、地球温暖化対策への積極的な取組としてPR効果が期待できることに加え、クレジットを温室効果ガスを排出する側の大企業等へ売却することで、売却益を得ることができます。農業分野では下図の6つの方法論が承認されています。その中でも「水稻栽培における中干し期間の延長」の取組については、東北地域が全国で一番の取組面積となっています。

・全国の取組状況(面積)



■農林漁業者・食品産業事業者等による活用 が想定される主な方法論 2023年11月時点

省エネ	ボイラーの導入 ヒートポンプの導入 空調設備の導入 園芸用施設における炭酸ガス施用システムの導入
再エネ	バイオマス固形燃料(木質バイオマス)による化石燃料又は系統電力の代替 太陽光発電設備の導入
農業	牛・豚・ブロイラーへのアミノ酸バランス改善飼料の給餌 家畜排せつ物管理方法の変更 茶園土壌への硝化抑制剤入り化学肥料又は石灰窒素を含む複合肥料の施肥 パイオ炭の農地施用 水稻栽培における中干し期間の延長 肉用牛へのバイパスアミノ酸の給餌
森林	森林経営活動 再造林活動

■農業分野の方法論

牛・豚・ブロイラーへのアミノ酸バランス改善飼料の給餌

家畜にアミノ酸バランス改善飼料を給餌することにより、排せつ物管理からの一酸化二窒素(N₂O)排出量を抑制

アミノ酸バランス改善飼料

給餌

ふん尿

N₂O 排出を抑制

家畜排せつ物管理方法の変更

家畜排せつ物の管理方法を変更することにより、メタン(CH₄)及びN₂Oの排出量を抑制

ふん尿

貯留槽

変更

CH₄ N₂O 排出を抑制

(例) 貯留 (例) 強制発酵

茶園土壌への硝化抑制剤入り化学肥料又は石灰窒素を含む複合肥料の施肥

茶園に施用する窒素肥料を硝化抑制剤入りの化学肥料又は石灰窒素を含む複合肥料に代替することで、土壌からのN₂O排出量を抑制

硝化抑制剤入り化学肥料又は石灰窒素を含む複合肥料

施肥

N₂O 排出を抑制

パイオ炭の農地施用

パイオ炭を農地に施用することで炭素を土壌に貯留

パイオ炭

施用

難分解性炭素として長期間貯留

稲作土壌の農地または採草放牧地

水稻栽培における中干し期間の延長

水稻の栽培期間中に水田の水を抜いて田面を乾かす「中干し」の実施期間を従来よりも延長することで、土壌からのCH₄排出量を抑制

中干し期間を7日間以上延長

CH₄生成菌の活性低下

CH₄ 排出を抑制

肉用牛へのバイパスアミノ酸の給餌

肉用牛に、バイパスアミノ酸を加えた飼料を給餌することにより、従来より肥育期間が短縮されると等により、枝肉重量あたりのCH₄及びN₂Oの排出量を抑制

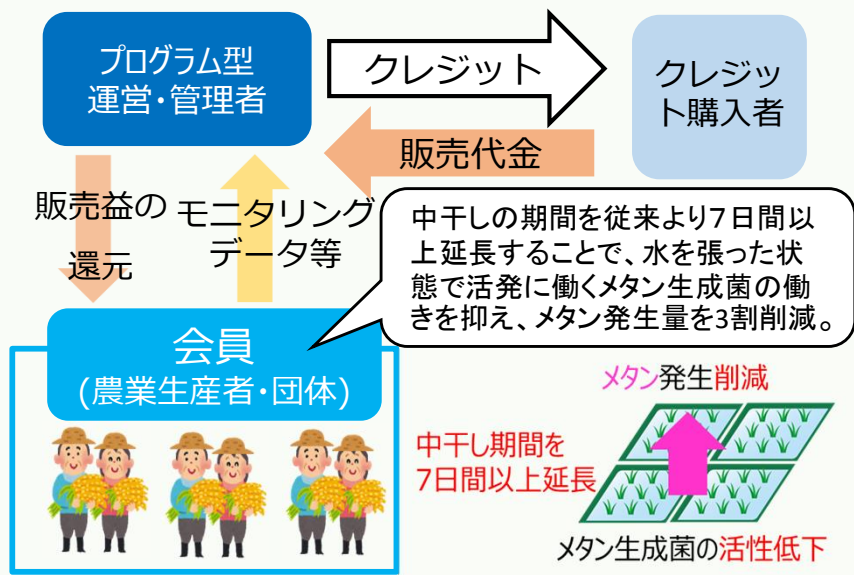
バイパスアミノ酸を加えた飼料

給餌

枝肉重量あたりのCH₄ N₂O 排出を抑制

消化管内発酵

ふん尿



有機農業の日（オーガニックデイ）が初開催！！

平成18年12月8日に有機農業推進法が成立してから10周年を記念し、平成28年に12月8日が「有機農業の日」として制定されました。農林水産省では消費者の理解醸成や需要喚起を目的として、今年度初めて有機農業の日を中心とした令和6年11月18日～12月13日を特別期間とし、「学校給食での有機農産物の利用」、「有機食品の販売促進の取組」の推進や、「有機農業関連イベント」を紹介しました。

東北では、岩手県盛岡市での「マイヤ仙北店」で有機農産物の販売イベントの開催、宮城県大崎市での有機農産物生産農家による中学生への授業と有機米の給食への提供、仙台市での新鮮なオーガニック野菜などを販売するランチオーガニックマーケットの開催など、各地で有機農業に関係する取組が行われました。

マイヤ仙北店で有機農産物の販売イベント開催される

12月7日、8日の両日、岩手県盛岡市のスーパーマーケット「マイヤ仙北店」で有機農産物の販売イベント「イーとうほくアクション【いわて】」が開催されました（岩手県有機JAS協議会と（株）マイヤ主催）。



有機農業者（左）と消費者（右）



「有機JASマーク」を貼付した野菜



作・ゆみ☆マルキン

R6年度補正予算とR7年度予算概算決定

「令和6年度農林水産関係補正予算の概要」と「令和7年度農林水産関係予算概算決定の概要」を公表しました。みどりの食料システム戦略による環境負荷低減に向けた取組強化に向けては、以下の主な対策を始めとしたR6年度補正予算が確保され、R7年度予算が概算決定されています。

R7年度予算概算決定額（R6年度当初予算額）



R6年度補正予算の概要はこちら



R7年度概算決定の概要はこちら



みどりの食料システム戦略推進総合対策 6億円（7億円） ※R6年度補正予算額38億円

○ グリーンな栽培体系への転換の加速化、有機農産物の生産・需要拡大、環境負荷低減の取組を支援する新制度構築に向けた調査、環境負荷低減の「見える化」やJ-クレジットを通じた関係者の行動変容、理解醸成 等

概要はこちら



環境保全型農業直接支払交付金 28億円（26億円）

○ 農業生産に由来する環境負荷を低減する取組と合わせて行う地球温暖化防止や生物多様性等に効果の高い営農活動を支援（令和7年度から、支援対象取組等を一部見直し、有機農業の移行期への重点支援や、水田からのメタン排出を抑制するための仕組みの導入などを実施）

概要はこちら



◆ 「東北みどり戦略だより」の問合せ先：東北農政局企画調整室総括チーム
022-263-1111（内線4080、4405、4259）

